

殺菌剤

バリダシン®液剤5

バリダマイシンA 5.0%

種類名/バリダマイシン液剤
農林水産省登録/第17386号(住友化学登録)
毒性/普通物*
有効年限/5年
包装/500ml×20

特長

- リゾクトニア病害、細菌病の両方に効果を示します。
- ユニークな作用機構で、薬剤感受性低下の心配がほとんどなく、他剤に感受性の低下した菌にも効果を示します。
- 適用作物への汚れの心配がほとんどありません。
- 紋枯病防除剤で、兵庫県明石市の土壌から分離した放線菌 (*Streptomyces hygroscopicus var. limoneus*) によって生産される抗生物質バリダマイシンを主成分としています。
- 稲紋枯病をはじめとする、多くのリゾクトニア菌や、白絹病菌などの糸状菌(カビ)に対して優れた防除作用を発揮します。また、野菜・果樹の細菌性病害や稲「もみ枯細菌病」にも登録を取得しました。
- バリダマイシンは稲紋枯病菌や類縁の菌、並びに細菌に特有の酵素(トレハラーゼ)の活性を阻害し、菌体内に貯えられた糖トレハロースをエネルギー源としてのグルコースへの変換を抑制することによって、効果を発揮するというユニークな作用機構を示します。
- バリダマイシンを処理した植物体内では、抵抗性誘導に係る遺伝子の発現が観察されます。一方、バリダマイシンは、トレハロースを利用しない細菌性病害にも防除効果を示すことから、植物に対し、全身獲得抵抗性を誘導することが示唆されております。

適用病害と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
もも	せん孔細菌病	500倍	200~700ℓ /10a	収穫7日前まで	4回	
すもも	黒斑病			収穫3日前まで		
かんきつ	かいよう病			収穫7日前まで		
稲	紋枯病 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌 褐色菌核病菌 褐色紋枯病菌 もみ枯細菌病)	1000倍	60~150ℓ /10a	収穫14日前まで	本剤 バリダマイシン剤 5回 6回 [育苗箱灌注は1回、 本田では5回]	散布
	紋枯病	300倍	25ℓ /10a			
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (白絹病菌 リゾクトニア菌)	1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り希釈液 500ml	は種時~ 発病初期	本剤 バリダマイシン剤 1回 6回 [育苗箱灌注は1回、 本田では5回]	灌注
こんにゃく	白絹病	500倍	1000~3000ℓ /10a	収穫前日まで	3回	散布
	葉枯病 腐敗病		100~300ℓ /10a			
さといも	茎腐病					

(つづく)

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
ばれいしょ	黒あざ病	200倍	—	貯蔵前 又は 植付前	本剤 1回 バリダマイシン剤 7回 [種いもへの処理は 1回、植付後は6回]	瞬時～10分間 種いも浸漬 種いも散布	
			種いも 100kg当り 2.5～3ℓ				
	10倍	種いも 100kg当り 200～300mℓ	植付前				
	青枯病 軟腐病	500倍	100～300ℓ /10a	収穫3日前 まで	本剤 6回 バリダマイシン剤 7回 [種いもへの処理は 1回、植付後は6回]	散布	
	軟腐病	8倍	1.6ℓ/10a			無人航空機 散布	
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	800倍	3ℓ/m ²	は種直後	1回	灌注	
キャベツ	株腐病 黒腐病 軟腐病			収穫7日前 まで	5回	散布	
なす	青枯病	500倍	100～300ℓ /10a	収穫前日 まで	10回		
ブロッコリー	黒腐病 軟腐病	500～ 800倍			4回		
チンゲンサイ	黒斑細菌病	500倍			収穫3日前 まで		3回
はくさい	軟腐病 黒斑細菌病			収穫7日前 まで	4回		
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌) 軟腐病	8倍	1.6ℓ/10a	収穫3日前 まで	5回		無人航空機 散布
たまねぎ	腐敗病 軟腐病						
レタス	すそ枯病 腐敗病	800倍	100～300ℓ /10a	収穫前日 まで	3回	散布	
非結球レタス	軟腐病			収穫3日前 まで			
ほうれんそう	株腐病	500倍	収穫前日 まで	4回			
未成熟 とうもろこし	紋枯病	1000倍	収穫7日前 まで	3回			
しょうが		800倍	収穫14日前 まで	4回			
セルリー	軟腐病		収穫前日 まで	3回			
みつば	立枯病	800倍	100～300ℓ /10a	育苗期	本剤 1回 バリダマイシン剤 4回 [育苗期は1回、 移植後は3回]		
				移植後 但し、 収穫7日前ま で、伏せ込み 栽培は伏せ込 み前まで	本剤 3回 バリダマイシン剤 4回 [育苗期は1回、 移植後は3回]		

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
にんにく	春腐病	800倍	100～300ℓ /10a	収穫3日前まで	5回	散布
ふき	白絹病		3ℓ/m ²	収穫7日前まで	本剤 5回 バリダマイシン剤 5回 [種茎浸漬は1回]	灌注
ふき (ふきのとう)			—	植付時	本剤 1回 バリダマイシン剤 6回 [種茎浸漬は1回、 灌注は5回]	30分間 種茎浸漬
			3ℓ/m ²	収穫30日前まで	本剤 5回 バリダマイシン剤 6回 [種茎浸漬は1回、 灌注は5回]	灌注
にら	葉腐病 白絹病		100～300ℓ /10a	刈揃え前まで	3回	散布
ねぎ	軟腐病	8倍	1.6ℓ/10a	収穫前日まで	本剤 2回 バリダマイシン剤 3回 [は種時までの処理は 1回、は種後は2回]	無人航空機 散布
	白絹病	500倍	100～300ℓ /10a			散布
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400倍	6ℓ/m ²	は種時	本剤 1回 バリダマイシン剤 3回 [は種時までの処理は 1回、は種後は2回]	灌注
てんさい			3～6ℓ/m ²	育苗中期	1回	
だいず	葉焼病	4倍	0.8ℓ/10a	収穫7日前まで	3回	無人航空機 散布
えだまめ		500倍	100～300ℓ /10a			
いちご	角斑細菌病 芽枯病	1000倍		収穫前日まで		
茶	赤焼病	500倍	200～400ℓ /10a	収穫7日前まで	2回	
はぼたん	黒腐病	800倍	100～300ℓ /10a	発病初期	8回	散布
西洋芝 (ベントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ)	1000倍	1ℓ/m ²			
日本芝	葉腐病 (ラーシパッチ)	500倍	0.5～1ℓ/m ²			

使用にあたって

■使用上の注意

- ボルドー液との混用はさけてください。

- 無人航空機散布に関する注意については「製品情報と注意事項」の見方、「空中散布、無人航空機（無人ヘリコプター等）散布・滴下に関する注意」をご参照ください。



- 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- 稲の苗立枯病に使用する場合、白絹病菌、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、その他の菌による苗立枯病には効果が劣るので注意してください。
- なす、ばれいしょの青枯病に使用する場合、本病の多発する圃場では、登録のある土壌くん蒸剤等との併用処理をしてください。
- ばれいしょの軟腐病に対しては効果が劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効です。
- うめ、かんきつのかいよう病に対しては効果がやや劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効です。
- レタス、非結球レタスに使用する場合、すそ枯病の防除を主体とし、多発生の腐敗病には効果が劣ることがあるので注意してください。
- だいごんの軟腐病が多発するような条件ではやや効果が劣る場合があるので、なるべく早めの散布をし、他剤との輪番使用をするとより有効です。
- ばれいしょの種いもに使用する場合は下記の注意を守ってください。
 - ①切断した種いもを処理する場合、切断面が乾いた後に行ってください。
 - ②種いも散布の場合は、種いもを床などに拡げ、全体が均一にぬれるよう散布してください。
 - ③処理した種いもはよく風乾してから植え付けてください。
- ふきおよびふき（ふきのとう）に使用する場合は、種茎浸漬処理と植え付け後の灌漑を組み合わせて使用してください。
- こんにゃくの白絹病に使用する場合は、地際部に薬液が到達するように、圃場全体に散布してください。
- 本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■薬害

- トマト、きく（秀芳の力等）には薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布してください。

■水産動植物への注意

- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。



- 使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。
- 公園等で使用する場合は、使用中および使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域内に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 処理した種いもは食料や動物飼料として用いないでください。

■貯蔵上の注意

- 密栓し、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

本資料の記載内容は2026年2月19日現在の登録内容に基づいています。